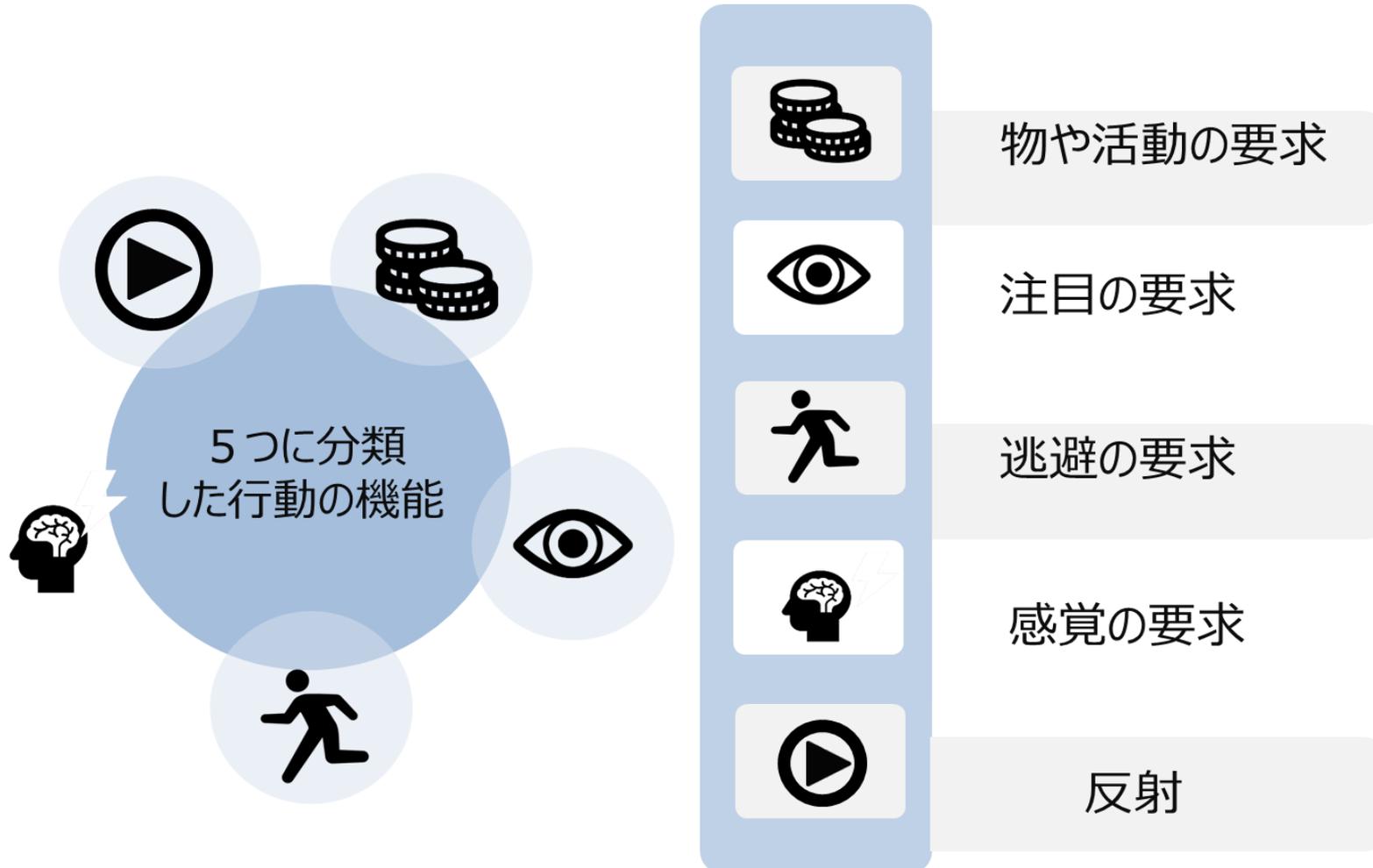


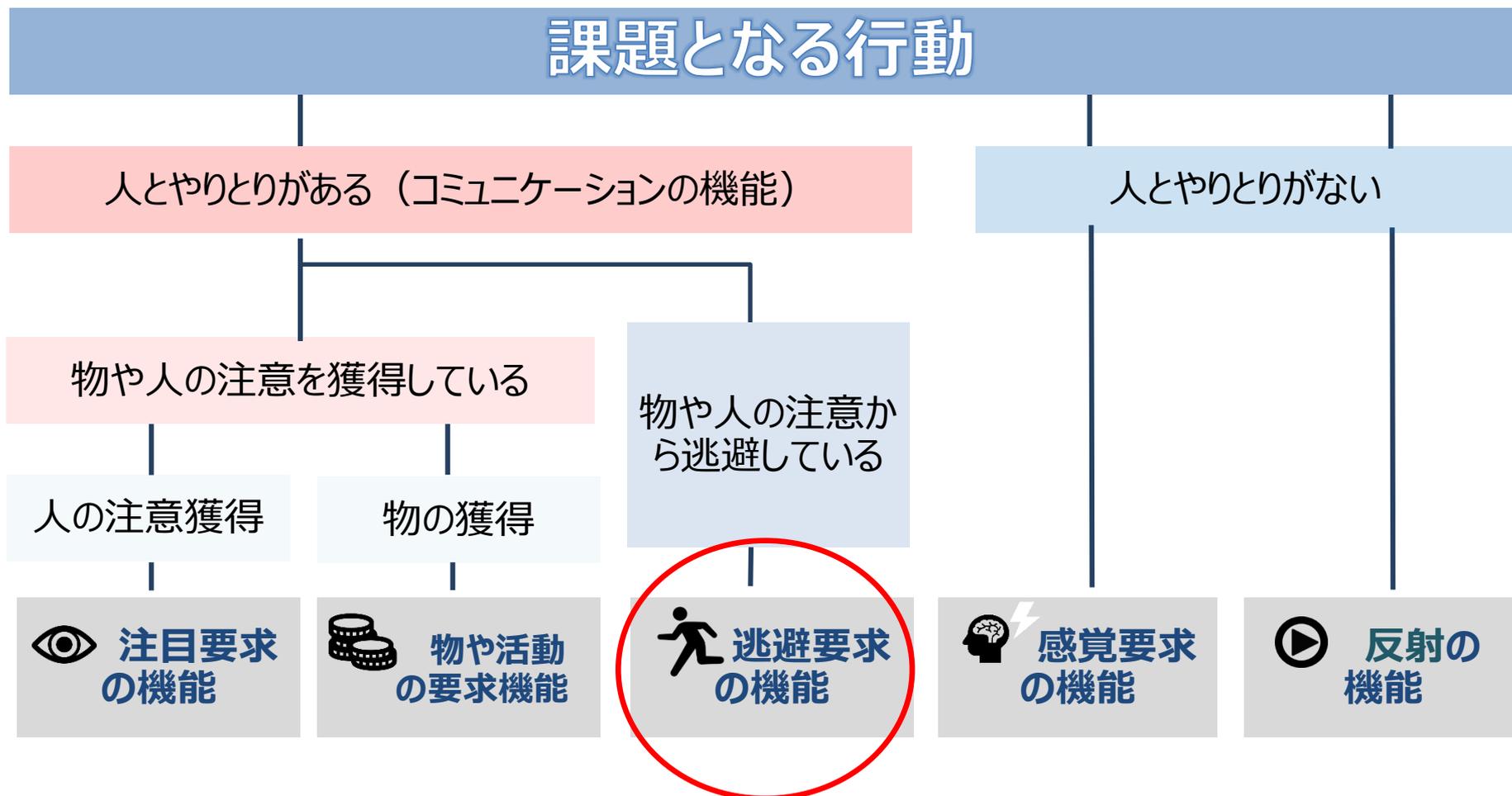
手順4. 行動の機能を推定する

5つに分類した行動の機能



ターゲットとした行動の機能を推察する

行動問題の機能を推定するフローチャート



手順5. ストラテジーシートの作成

「ストラテジーシート」とは

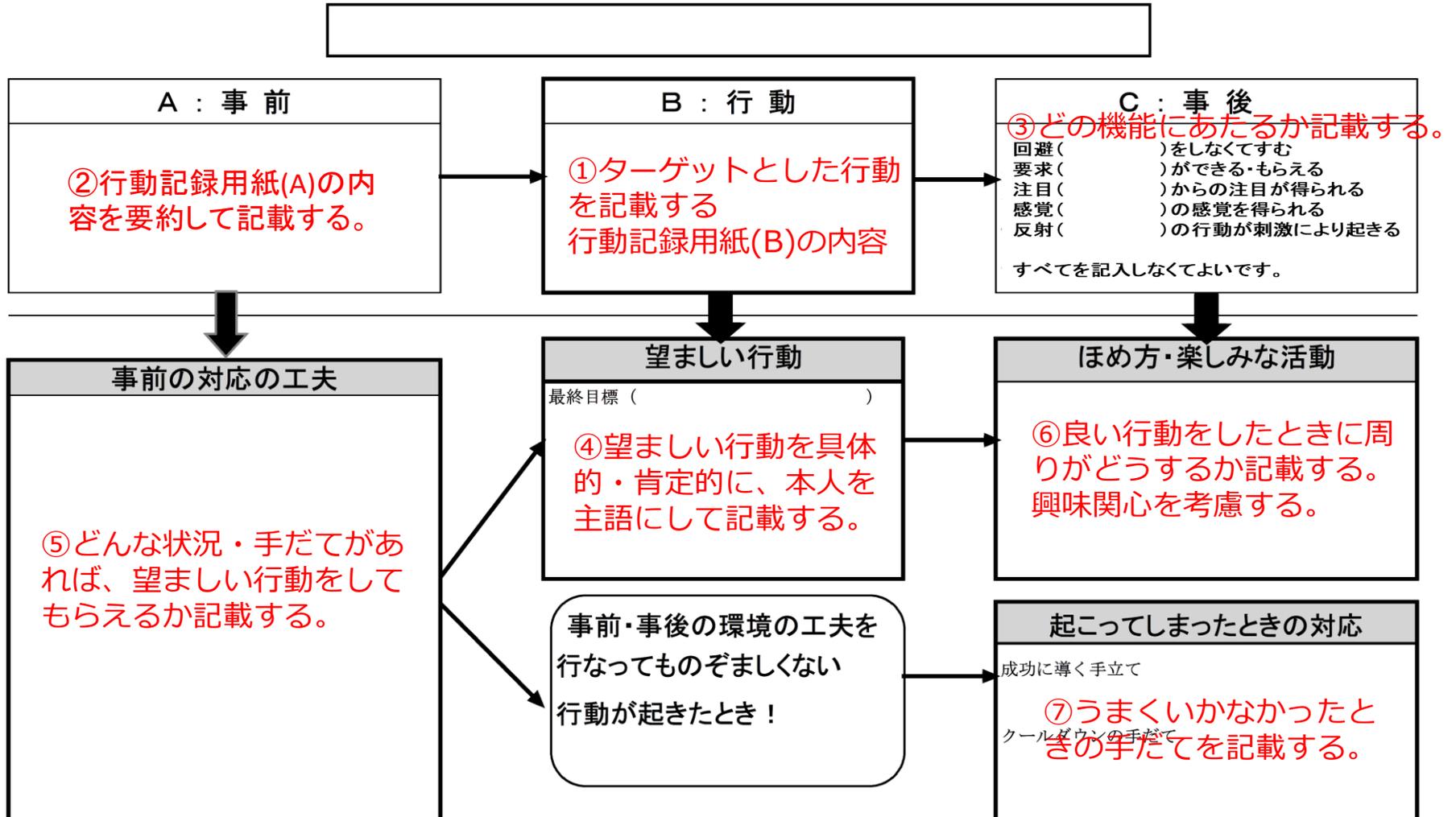
ストラテジー（Strategy）とは「戦略・目的達成のための方策・方法」の意味です。

ストラテジーシートは行動をもとに行動障害の背景を考え、対応策を考えるのに適しています。

ストラテジーシートは、行動への対応をチームで考え共通理解するときに活用できるフレームワークです。

ストラテジーシート の作成方法

ストラテジーシート ver. 3.0 【記入日 年 月 日】 【氏名 】



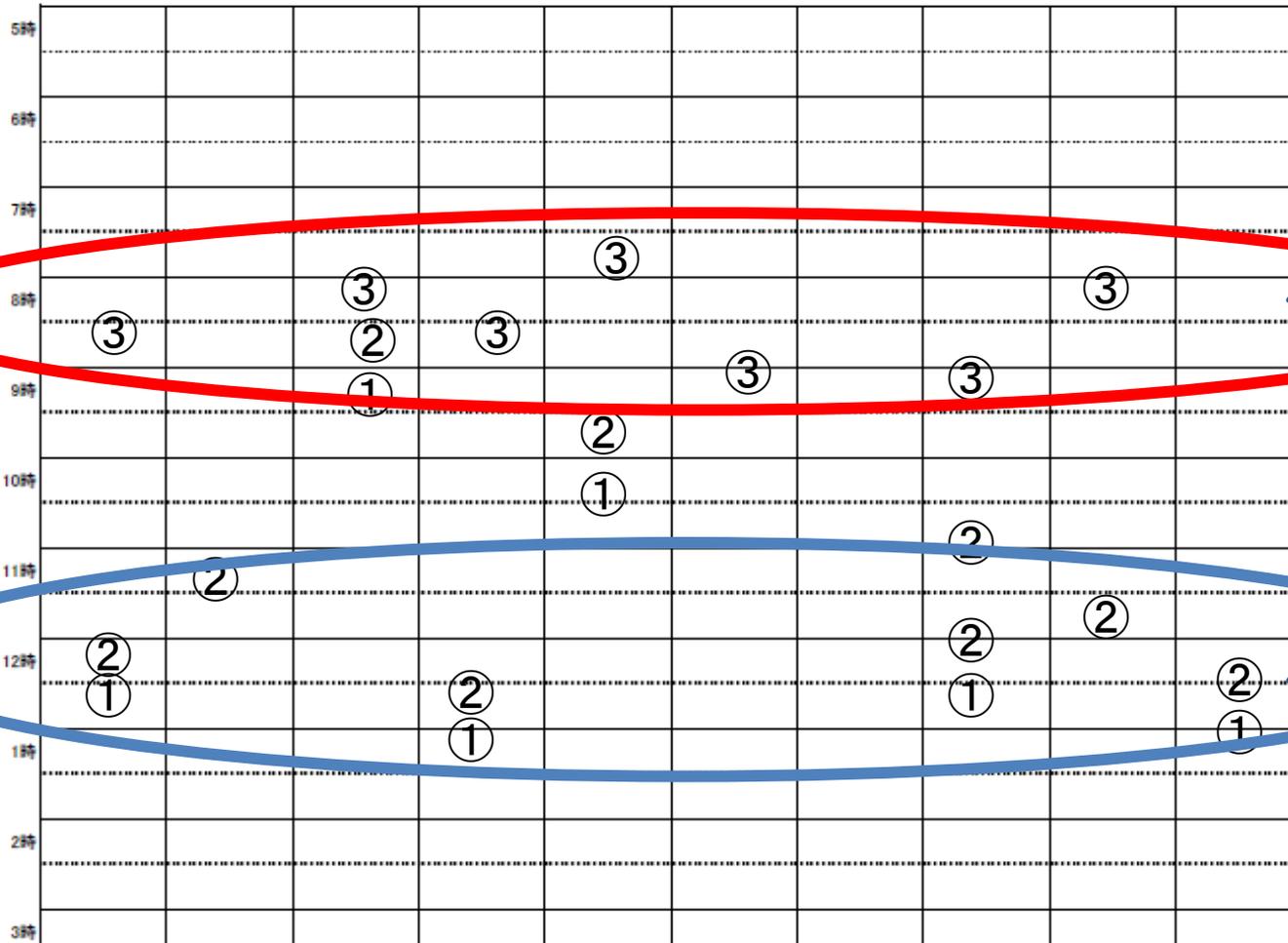
スキャッタープロットによる記録

<観察する行動>

①髪の毛を引っ張る

②突然触る

③いやがることを言う



起こりやすい時間がわかる

起こりやすいパターンがわかる

強度行動障害支援アドバンス研修 の取り組みから

強度行動障害支援の実践を阻むもの

研修履修者の知識、技術の向上 = 成果ではない
学んだ事を活かす環境が大切だが阻むものが多い
アドバンス研修では、活かす環境を重視

- | | | |
|----------|---|----------------------|
| 共通理解の不足 | → | ミーティング時間の確保 |
| 専門性の不統一 | → | 動画によるミニ研修の実施 |
| 認識のずれ | → | 具体的な目標設定 |
| 解釈のずれ | → | 客観的な行動記録 |
| 記録の統一共有 | → | ソフト・アプリによる記録 |
| スーパービジョン | → | 研修リーダーからのネットによるアドバイス |

事業所内の共通理解と リーダーシップが職場環境を変える

- ガバナンスの具体化
- 管理職の理解と応援
- 仲間づくり
- 情報共有システム

– 情報・支援を共有できないと「実行」が困難になる

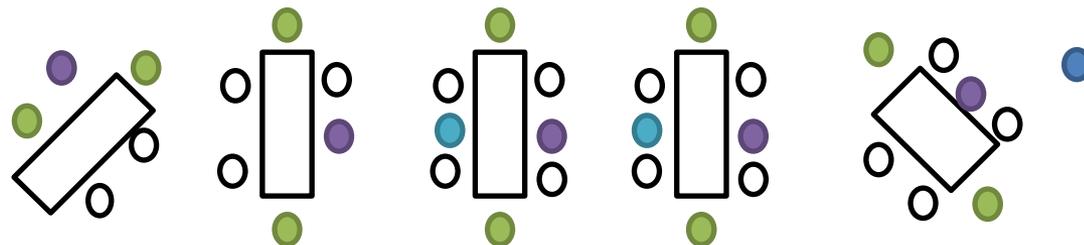
- プログラムの作成と実行をマネジメントできるリーダーの養成が重要！
- 記録、支援計画立案、実施、評価のルーティン（PDCAサイクル）を回せる人

アドバンス研修の特徴

1. 連続5回の事例検討会
2. 参加者は年間30名位
3. 1グループ3名にグループリーダー、インストラクター配置
4. ICTを活用したスーパーバイズ、コンサルテーション
5. 研修のミニ動画を期間つきで公開し、事業所内での伝達研修に活用
6. グループリーダー、インストラクターは本研修の卒業生
7. 事業所の施設長の研修参加が必須条件

インストラクター
グループリーダー

講師

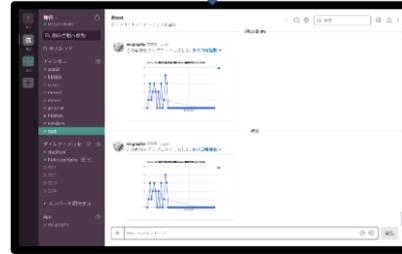


研修全体の情報提供



研修用 HP

グループリーダーからの アドバイス ミニ講義の提供



SNS

ネット環境があれば
パソコン・スマホ・タブレットで
使える

Google Form

s011tokyo 行動観察シート

入力者のニックネームを記入してください*

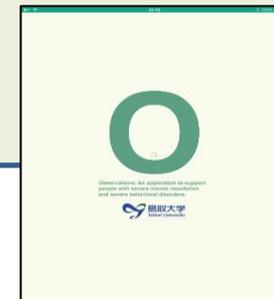
行動を具体的に記入してください*

行動が生じた日にちを選んでください*

行動が生じた時間を選んでください*

事業所での
行動記録

ネット環境なしで記録できる
アプリ
Observations



アプローチのポイント

① アセスメントの理解

- プロフィール(障害特性、コミュニケーションスキル、余暇スキル、行動の履歴)
- 行動上の問題に対するスクリーニングと全体把握のツール
ABC-J,BPI-S
- 機能的アセスメント (Functional Assessment) の理解

② 機能分析に基づくアプローチの理解

- 環境調整
- 問題とされる行動に対する代替行動の獲得支援

③ チームアプローチの理解と実践 + ICT活用

- 各事業所でのマネジメント、事例ミーティング、行動記録、それに基づいた実践と成果の共有を行えるようにする

強度行動障害アドバンス研修とは

(主催：東京都社会福祉協議会)

① 各事業所において行動障害支援のマネジメントができるリーダーの養成が目的。

* 1400万都市（日本人口の10%）「外味°り東京」における強行支援リーダーの育成と地区別相談支援体制の設立にむけて

②機能分析に基づくアプローチの理解

連続研修による「行動機能分析」のレクチャーと理解。Eビ°デンスに基づく支援°°グラム（計画・作成・実施・検証≡PDCAサイクル）の運用

* 合理的配慮, 予防的支援 + 「行動機能分析」

③チームアプローチの理解と実践 + ICT活用

各事業所でのマネジメント、事例ミーティング、行動記録に基づいた実践と成果の共有を行えるようにする

* 「知識, 技術」のみならず「活用」⇒コーディネート力

* 事業所内「共有」と「効率化」⇒会議設定やICT活用のあり方